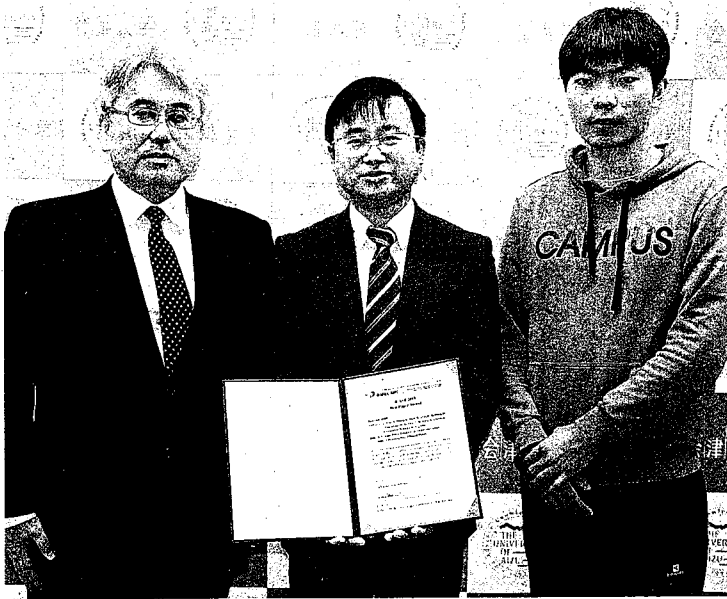


AIでポリープ判別

会津大と会津医療センター

台湾で最優秀論文賞

会津大(会津若松市)の朱欣上級准教授(40)と福島医大会津医療センター(同)の富樫一智教授(57)らの研究チームは大腸内視鏡で撮影した画像から人工知能(AI)を使ってポリープがあるかどうかを判別する高精度な技術を開発した。ポリープに関する症例の統計データと照らし合わせることで、識別の精度を約97%まで高めたという。1日に会津大で開かれた記者会見で発表された。



最優秀論文賞を受賞した(左から)富樫教授、朱上級准教授と研究チームの一人郭哲さん

研究では、ポリープの形や色などのデータを入力したAIが大腸内を撮影した画像データからポリープの有無を瞬時に識別する。世界では現在、同様な仕組みで約90%の確率でポリープの有無を判断する技術は開発されているという。

富樫教授によると、一般的に医師の診察では見落とすポリープが約25%あるという。今後は、大腸内視鏡で撮影しながらその場でポリープの有無を判断できるように改良したい考え。将来的には見つけたポリープに発がん性のリスクがあるかどうかまで、AIで判別できるような技術の確立を目指す。

成果をまとめた論文は11月8～10日に台湾で開催された米国電気電子学会(IEEE)の第8回認識科学技術国際会議で最高賞の最優

秀論文賞を受賞した。朱上級准教授は「AIが医療技術を進歩させることを証明した」、富樫教授は「新しい技術を医療の現場に生かし、医師の精神的な負担軽減につなげたい」と語った。